

案件概要書

2012 年 6 月 18 日

国際協力機構

南アジア部南アジア第 3 課

1. 案件名（国名）

国名：スリランカ民主社会主義共和国

案件名：新ケラニ橋周辺交通改善事業

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における道路セクターの開発実績（現状）と課題

スリランカでは道路輸送が陸上の旅客・貨物輸送の 9 割を担い、同国の社会・経済活動において極めて大きな役割を果たしている。近年、同国の堅調な経済成長を背景に自動車登録台数の伸びが著しく特に西部州コロomboにおいては、朝晩の通勤・通学時間帯を中心とした交通渋滞の悪化が著しい。コロombo市内から、スリランカ北・東部（北部・東部・中部州等）へアクセスするためには、コロomboの北側を流れるケラニ河にかかる 3 本しかない橋に交通が集中することから慢性的な渋滞が課題となっている。

中でも新ケラニ橋においては、第 2 の都市キャンディーへ通じる国道 A1 号線、バンダラナイケ国際空港への一般道及び高速道路、コロombo港アクセス道路、コロombo市内を縦断するベースライン道路と 5 本の幹線が交差し、交通集中に伴う渋滞が著しいことから、交通分散化を考慮した新規架橋等による渋滞緩和が喫緊の課題となっている。

(2) 当該国における道路セクターの開発政策と本事業の位置づけ

2016 年までの 6 年間で年平均 8%の実質 GDP 成長率を目指すとしたスリランカの開発計画である「マヒンダ構想(2010－2016 年)」において、運輸インフラの整備は最重要課題とされ、その中でもコロombo圏の都市交通の改善については、西部州が GDP の 50%を占めていることから経済成長を考慮する上で特に重視されている。

本事業はケラニ河を渡河する新ケラニ橋上流部側に新規橋梁及び高架道路の建設を通じ交通分散化を図り、もってスリランカ北・東部へのアクセスに係るコロombo都市交通における慢性的な交通渋滞を改善するものであり、スリランカ開発計画に合致するものである。

(3) 道路セクターに対する我が国及び JICA の援助方針と実績

我が国の「対スリランカ国別援助方針」（2012 年）では、援助の方向性として、「経済基盤の整備に向けた制度改革と援助」を掲げており、この方針の下 JICA は都市交通の改善の取り組みとして、現在大コロombo圏都市交通整備事業（SL-P89,90,101）、「コロombo都市交通調査」（開発計画調査型技術協力、2012 年-）を実施中である。

(4) 他の援助機関の対応

世界銀行は「コロombo都市環境改善計画プロジェクト」を通じて排水改善を含むコロomboの環境改善を実施している。また、ADB はコロombo港の物流改善を目的とした都市交通改善プロジェクトを実施している。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本事業は、西部州コロンボ北側を流れるケラニ河、新ケラニ橋周辺に新規架橋・高架道路を建設することで、交通分散を図りつつ交通渋滞を改善することにより、西部州における発展及び地方部とのコネクティビティーに寄与するものである。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名：西部州コロンボ県、ガンパハ県

(3) 事業概要（調達方法を含む）（協力準備調査にて確認）

- 1) 土木工事（取り付け道路、橋梁設置、高架道路建設等）
- 2) コンサルティング・サービス（詳細設計、入札補助、施工監理等）

(4) 事業実勢体制

- 1) 借入人：スリランカ民主社会主義共和国政府
- 2) 事業実施機関／実施体制：港湾高速道路省（Ministry of Port and Highway）、道路開発庁（Road Development Authority）。（協力準備調査にて確認）
- 3) 操業・運営／維持・管理体制：道路開発庁（Road Development Authority）。（協力準備調査にて確認）

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

①カテゴリ分類：A

②カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月公布）」に掲げる影響を及ぼしやすい特性に該当するため。

2) 貧困削減促進等：（協力準備調査にて確認）

(6) 他スキーム、他ドナー等との連携：（協力準備調査にて確認）

(7) その他特記事項：本邦技術活用条件（STEP）を想定。（協力準備調査にて確認）

既存交通を妨げない急速施工、軟弱地盤への高架、複数箇所曲線部分を有する橋梁

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

既存の類似案件における事後評価においては、実施機関による継続的な点検・補修等の維持管理能力を定着させることが重要との教訓が得られている。

(2) 本事業への教訓

本事業においても、建設する橋梁・高架道路の効果的・効率的な利用を達成するために、RDAによる予算・制度・人材面における維持管理能力の強化について、協力準備調査を通じて十分協議を行うこととする。

以 上

[別添資料] 地図

別添資料 新ケラニ橋周辺交通改善事業地図

